

協同の発見

第 324号
2019.11

きょうどうのはっけん



市民主体のコミュニティづくり -人材・循環・学び・実践をキーワードに-

- ◎ 地域の持続可能性を担う主体づくりとワーカーズコープへの期待
-広井良典著『人口減少社会のデザイン』(東洋経済新報社)の多極集中型を中心とする座談会-
編集：相良 孝雄
- ◎ 中島 恵理 地域循環共生圏の創造による持続可能な地域づくりについて
-2019/10/24開催 「地域未来を描く産業開発 全体交流会」講演より-
- ◎ 木原 奈穂子 丹波篠山市と神戸大学との連携による人材育成と地域づくり
- ◎ 内山 三智子/高田 康子/中村 仁子/吉澤 淳子(センター事業団 金町地域福祉事業所)
市民が主体となりつくる都市の居場所-心が通い合う、地域の元気拠点づくりを目指して-
編集：相良 孝雄

■巻頭言

古村 伸宏 コミュニティを編み直す

■協同の広場

鈴木 昭裕 「2019協同集会 in 東海」とともに生き、ともにはたらく
~未来へつなぐ協同の再発見、私たちに今、できることは~

■海外レポート

吉田 邦彦 台南のビル倒壊の震災復興、責任問題と居住福祉法学-日台行程技術検討会報告-

■会員だより

伊丹 謙太郎 ワーカーズコープの<現在>との邂逅-千葉県域での活動を中心に-

おーぶんはうす金町の2018~2019 を描く



一般社団法人 協同総合研究所
JAPAN INSTITUTE OF CO-OPERATIVE RESEARCH

題字 / 藤原 桂州

協同の發見

第324号 2019.11

特集

市民主体のコミュニティづくり —人材・循環・学び・実践をキーワードに—

目次

■巻頭言

コミュニティを編み直す	2
古村 伸宏(日本労協連理事長/協同総合研究所理事長)	

■特集 市民主体のコミュニティづくり —人材・循環・学び・実践をキーワードに—

・特集にあたって	4
相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)	
・地域の持続可能性を担う主体づくりとワーカーズコープへの期待 —広井良典著『人口減少社会のデザイン』(東洋経済新報社)の多極集中型を中心とする座談会— ...	6
編集：相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)	
・地域循環共生圏の創造による持続可能な地域づくりについて —2019/10/24開催 「地域未来を描く産業開発 全体交流会」講演より—	20
中島 恵理(環境省大臣官房環境計画課計画官環境経済調査室長/前長野県副知事)	
・丹波篠山市と神戸大学との連携による人材育成と地域づくり	29
木原 奈穂子(神戸大学大学院農学研究科 特命助教)	
・市民が主体となりつくる都市の居場所 —心が通い合う、地域の元気拠点づくりを目指して—	35
内山 三智子/高田 康子/中村 仁子/吉澤 淳子(センター事業団 金町地域福祉事業所) 編集：相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)	

■協同の広場

「2019協同集会 in 東海」ともに生き、ともにはたらく ～未来へつなぐ協同の再発見、私たちに今、できることは～	44
鈴木 昭裕(センター事業団東海事業本部事務局長/会員)	

■海外レポート

台湾のビル倒壊の震災復興、責任問題と居住福祉法学 —日台行程技術検討会報告—	51
吉田 邦彦(北海道大学法学研究所教授/協同総研理事)	

■会員だより

ワーカーズコープの<現在>との邂逅 —千葉県域での活動を中心に—	59
伊丹 謙太郎(千葉大学人文社会科学系教育研究機構特任助教/協同総研理事)	

■労協連だより 高成田 健	64
---------------------	----

■研究所だより 荒井 絵理菜	66
----------------------	----

巻頭言

コミュニティを編み直す

古村 伸宏 (日本労協連理事長/協同総合研究所理事長)

コミュニティというキーワードを冠した政策や実践がテーマになって久しい。コミュニティケア、コミュニティビジネス、コミュニティ政策、コミュニティデザイン、コミュニティ通貨、そしてコミュニティ経済など、コミュニティについての議論は依然として活発である。この背景には、様々な形成されてきたコミュニティの解体過程への危機意識があり、それは社会のあり方を決定づけるほどの根底的な課題と捉えられる。コミュニティを冠する言葉は、「コミュニティを活用した」「コミュニティによる」という意味合いとともに、「コミュニティづくり」を含意している。まさに今、様々な政策や社会的営みの目的が、「コミュニティづくり」でつながろうとしている。

人間という生き物は、自然や他の動物との関係において、「弱い」存在という自覚から始まったと言われる。それゆえ共同体をつくり、生き延びる術を協同で拓いてきた。京都大学総長の山極壽一さんによれば、その中心は「ともに食べる」「ともに育てる(育つ)」ことだと言われている。人間という種が生き延びるための生存戦略が「コミュニティ」であり、「協同」するこ

とだったとしたら、まさに今「コミュニティづくり」は、生存をかけた持続可能なあり方の中核をなすテーマと言える。コミュニティが解体し弱体化してきた原因こそ問わねばならない。

「持続可能な開発目標(SDGs)」が呼びかけられ、4年が過ぎようとしている。「SDGs」は世界共通言語となったが、一方でその実践の遅れは、本年9月のSDGsサミットにおける国連の危機感の表明が物語っている。

「取組は進展したが、達成状況に偏りや遅れがあり、あるべき姿からは程遠く、今取組を拡大・加速しなければならず、2030年までをSDGs達成に向けた『行動の10年』とする必要がある」

日本においては、国民の約4人に1人がSDGsを認知していると言われるが、世界のSDGs達成度ランキングでは162カ国中15位であり、とりわけ「ジェンダー平等」「つくる責任・つかう責任」「気候変動対策」「パートナーシップ」が最大の課題と指摘されている(「サステナブル・ディベロップメント・レポート2019-SDGs達成のための変革」国連持続可能な開発ソリュー

ション・ネットワーク+独ベルテルスマン財団)。これらの課題は、国と大企業が主導するSDGsの限界を表しているのではないか。加えて、石炭火力発電所の建設といった日本の態度は、世界から非難の目を向けられている。

そんな中、改定作業が進められている日本の「SDGs実施指針(案)」においては、「新しい公共」の項に協同組合が位置づけられようとしている。

「協同組合をはじめ、地域の住民が共助の精神で参加する公共的な活動を担う民間主体が、各地域に山積する課題の解決に向けて、自立と共生を基本とする人間らしい社会を築き、地域の絆を再生し、SDGsへ貢献していくことが期待される。」

コミュニティづくりと持続可能な地域づくりは一体であり、地域を舞台に市民がプレイヤーとなり、協同の力で課題を解決していくことの重要性を、協同組合が積極的に自覚し実践していく必要がある。更には、協同組合という「共助」を基礎とするコミュニティはどんな現状にあり、積極的にそのコミュニティを広げ多様化させていくために、どう変革していくべきかと突き付けられている。

世界は今、共通する最大の危機として気候変動と格闘している。もはや、経済・社会・環境を並列的に並べ統合的にアプローチする、という次元ではない。雑誌「世界」12月号は「気候ク

ライシス」という特集を組み、危機の様相は深刻かつ多くの人々の実感と不安になっている。何よりも、未来を奪われまいとする若者や子どもたちが世界中で声を上げ、行動を起こしている。

日本では、教育のあり方が「主体性」や「対話」「体験」を重視し、個性や多様性を尊重する方向へと舵を切ろうとしている。地域のあり方も市民の自治を基本に据える動きが加速している。そして労働の現場においても、尊厳ある働き方(ディーセントワーク)、働くことと暮らすことを結び直し暮らしと人生の豊かさを目指す働き方(ライフワーク)、職場や地域で「ともに」価値や目標を共有しながら、多様性を重視した働き方(チームワーク)を目指す、協同労働を創出する協同組合づくり=「労働者協同組合法」がいよいよ実現しようとしている。これらの動きは、「新しいコミュニティ」の探求として結び合い、「本物のコミュニティ」を創出させていく奔流となるに違いない。古い常識や価値観をいったん下ろし、新しい時代のあり方をデザインし、志向する。その中心は未来を求める子どもや若者たちであるべきだ。我々大人が、こうした若い力をエンパワーメントする存在になれるのか。それは「コミュニティ」のあり方・作り方の中で問われることになるだろう。ここに協同組合によるコミュニティづくりの真の挑戦があるように思う。

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合（ワークスコープ）への注目が増えています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。



研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の発見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。

おーぷんはうす金町の2018~2019 を描く



●今月の表紙

センター事業団金町地域福祉事業所が行ったマインドマップ。働く仲間がこれからしたいことや夢を出し合い、分類分けし、それを一枚にまとめたものが上のマインドマップ。2015年のマインドマップでは書いたことの6割～7割は実現しました。真ん中のひまわりはおーぷんはうす金町が目指す「地域の元気づくり拠点」を表わしています。「夢の見える化」と「実現する日付を入れること」の大切さを感じました。

所報 協同の発見 11月号(通巻 324号)

2019年11月15日(毎月1回15日発行)

編集・発行／一般社団法人 協同総合研究所

代表／古村 伸宏

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7F

Tel 03(6907)8033 Fax 03(6907)8034

Email kyodoken@roukyou.gr.jp URL <http://jicr.org/>

郵便振替口座 00140-7-552949

定価 1,300円(本体 1,182円)